



ぐるぐるプロジェクトについて

令和6年9月
放射線健康管理担当参事官室

福島第一原子力発電所事故における公衆の健康影響

急性障害

数週間以内に症状が出る

放射線被ばくに帰因して生じ得た急性の健康影響が報告されていない

国連科学委員会2020年/2021年報告書

➡ **福島第一原子力発電所事故後、急性障害は全く観測されませんでした。**

胎児発生障害

早産、低出産体重、先天性異常の頻度は、原発事故による影響を受けず、日本全体で観察された頻度と同様

国連科学委員会2020年/2021年報告書、福島県「県民健康調査」（妊産婦に関する調査）

➡ **福島県での先天的な異常等の発生は、全国調査と差はありません。**

遺伝的障害

通常の遺伝性疾患の発生頻度の増加

放射線被ばくが直接の原因となるような将来的な健康影響は見られそうにない

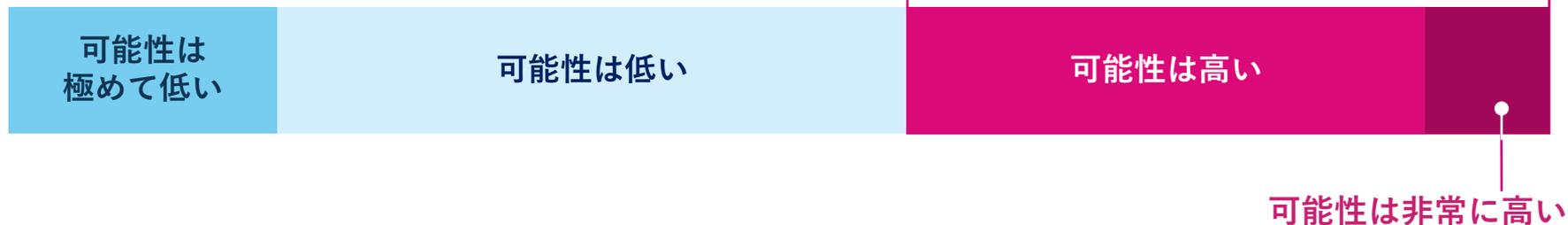
国連科学委員会2020年/2021年報告書

➡ **ヒトでは放射線による遺伝的影響は認められていません。**

2020年度調査結果

東京電力福島第一原発事故の被災地における、次世代以降の人（将来生まれてくる子や孫など）への放射線による健康影響について、あなたはどのように思いますか。

【2020年度】



ぐるぐるプロジェクトとは



東京電力福島第一原子力発電所事故に関連する放射線の健康影響に関して正しく理解している人を増やし、情報が更新されないことによる不安や誤解の解消、またはそこから生じる風評・差別・偏見をなくすことを目指すプロジェクトです。



ぐるぐるプロジェクト
公式YouTube



ぐるぐるプロジェクト
公式ホームページ



本プロジェクトでは、東京電力福島第一原子力発電所事故に関連する放射線の健康影響に関する課題をとおして

つむぐ : 「**学び・知をつむ”ぐ”**」

つなぐ : 「**人・町・組織をつな”ぐ”**」

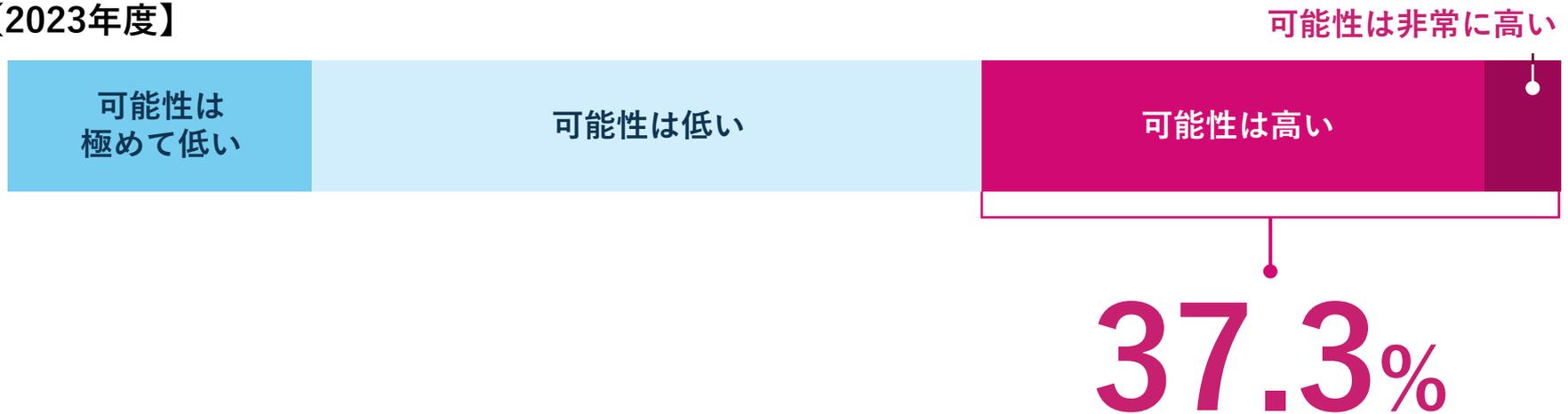
つたわる : 「**自分ごととしてつたわ”る”**」 ことにより、

一人ひとりが、福島の情報アップデートや、情報を読み解く力と風評にまどわされない適正な判断力を身に付けるための正確な情報発信に取り組んでいます。

2023年度調査結果

東京電力福島第一原発事故の被災地における、次世代以降の人（将来生まれてくる子や孫など）への放射線による健康影響について、あなたはどのように思いますか。

【2023年度】



2023年度調査結果（設問に回答する前の提示文）

提示なし

提示なし

国連科学委員会発表

国連科学委員会発表

放射線の人及び環境への影響等を調査し、国連総会及び加盟国に報告を行っている**国連の委員会**（注）は、『福島第一原発事故による放射線被ばくが直接の原因となるような**将来的な健康影響は見られそうにない**』と発表しています。

（注）国連所属組織UNSCEAR（原子放射線の影響に関する国連科学委員会）

国連＋環境省調査結果

国連科学委員会発表＋環境省調査結果

福島県に馴染みのある方（注1）の**70%以上**は、福島第一原発事故の被災地における放射線について、次世代以降の人（将来生まれてくる子や孫など）への**健康影響の可能性は低い**と答えています。（注2）

また、放射線の人及び環境への影響等を調査し、国連総会及び加盟国に報告を行っている**国連の委員会**（注3）は、『福島第一原発事故による放射線被ばくが直接の原因となるような**将来的な健康影響は見られそうにない**』と発表しています。

（注1）福島県出身の知り合いがいる人や福島県産食品に安心感を持つ人

（注2）2022年3月の環境省による調査

（注3）国連所属組織UNSCEAR（原子放射線の影響に関する国連科学委員会）

環境省調査結果

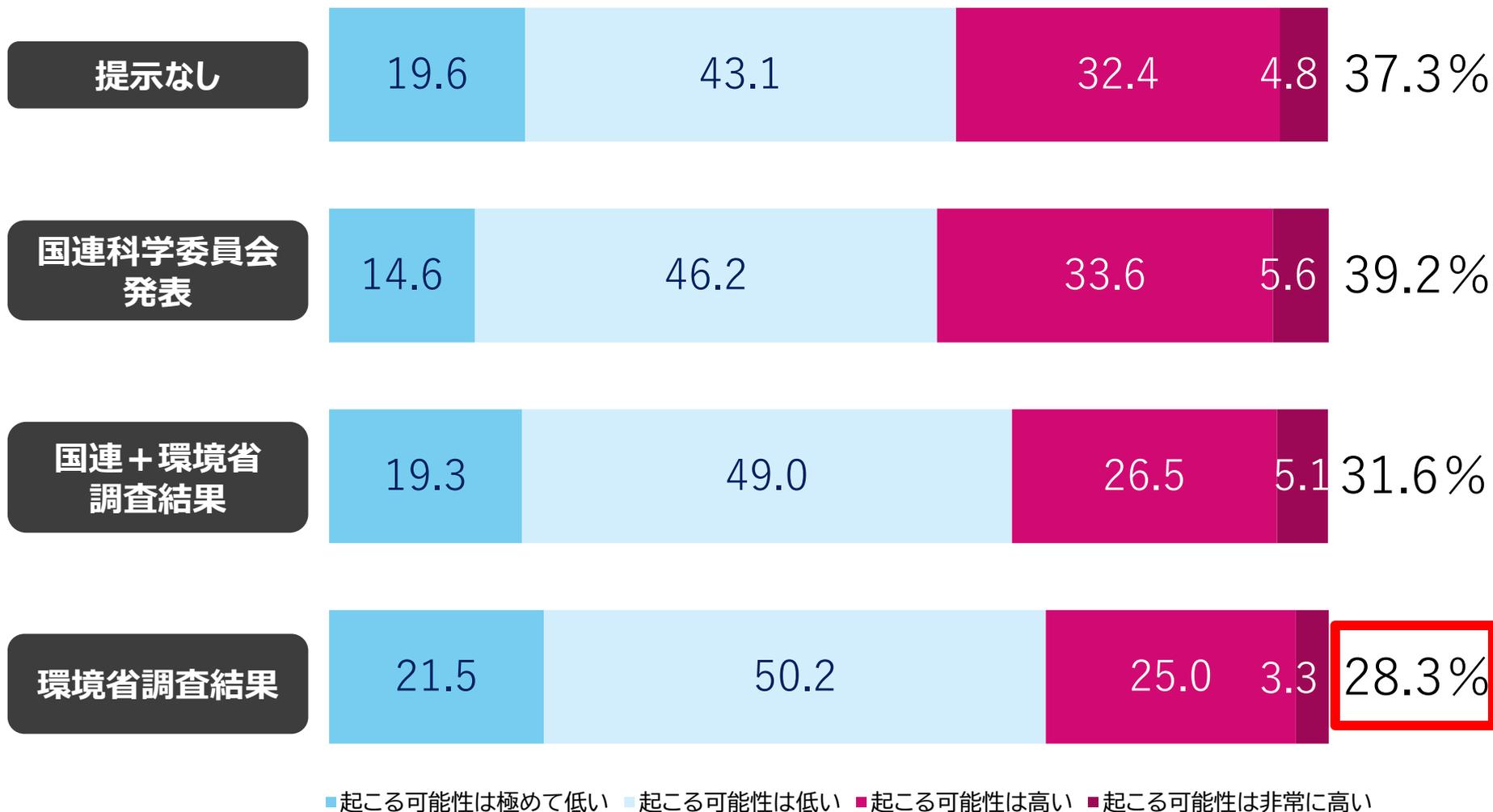
環境省調査結果

福島県出身の知り合いがいる人や福島県産食品に安心感を持つ人の**70%以上**は、福島第一原発事故の被災地における放射線について、次世代以降の人（将来生まれてくる子や孫など）への**健康影響の可能性は低い**と答えています。（注）

（注）2022年3月の環境省による調査

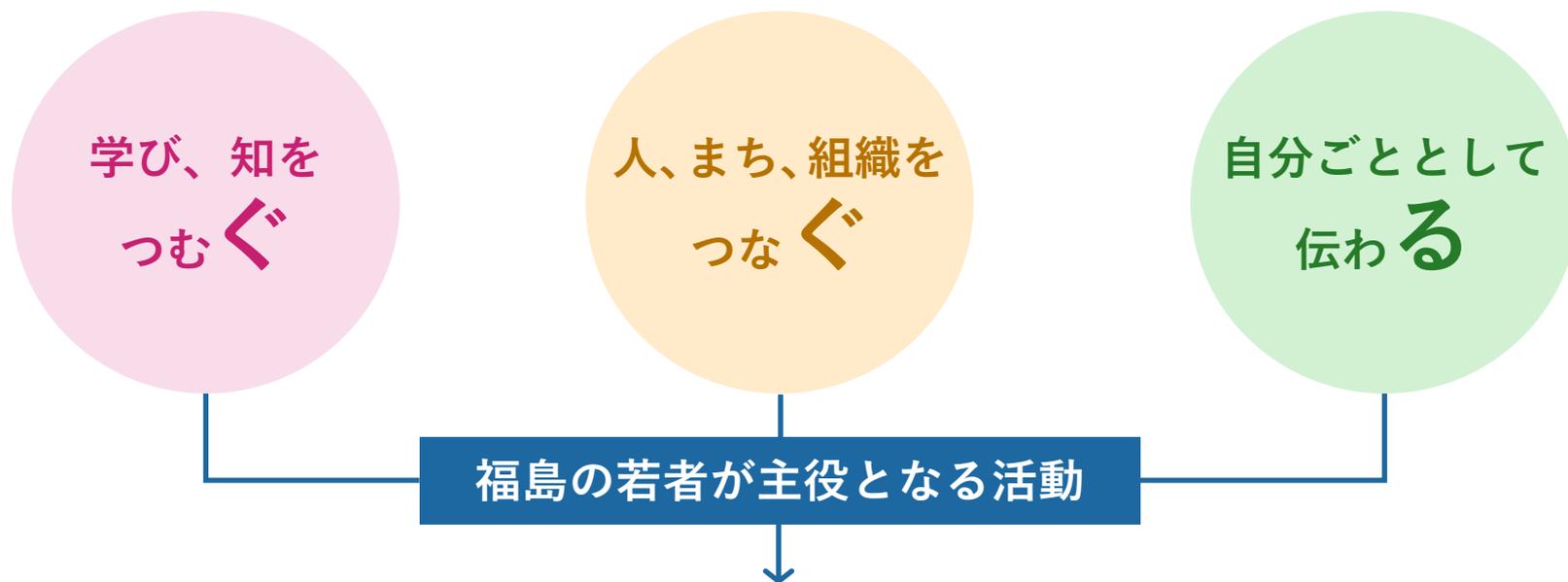
設問回答前の提示文による意識の変化

高い・非常に高い
と回答した割合



福島の未来を担う人たち（福島県在住・在勤等の10～30代）によりグループ活動を行うふくしまメッセンジャーズを立ち上げます。

メンバーの一人ひとりが、自分の身の回りのことや福島県内の声や実情などの情報を集め、自らが考え、そこから生まれたものを発信していくという活動を行います。



ふくしまメッセンジャーズ

募集

一般公募と推薦により、メンバーを構成

フィールドワーク

グループ活動

福島県内の人・団体・場所を訪問、ヒアリングや体験等の活動通じて被災や原発事故の実態や復興までの歩みなどについて認識を共有

個人活動

グループでのフィールドワークで得た体験や印象を元に各自で「福島の人たちの声」を集める個人のフィールドワークを行う

活動

次年度の本格発信活動に向けての準備活動を行う

活動例

- 動画やホームページのコンテンツ制作等
- 年度をまたぐコンテンツ制作の初期作業（次年度の環境省こども霞が関見学デー等の準備）
- ラジエーションカレッジで、「ゲストスピーカー」として講話
- 外部イベントへの出張や表敬訪問（環境省、農水省、復興庁、福島県等の復興系イベント等）
- Instagram等によるSNSでの発信

必要に応じ、専門家・クリエイター・インフルエンサー等の支援や助言を得ながら実施
支援や助言をした専門家等を「ふくしまメッセンジャーズサポーター」として認定

サポーター第1号
箭内夢菜さん
(福島県出身)

発表

フィールドワーク等で得た学びや気づきを「ぐるプロジェクトフォーラム」で発表

ラジエーションカレッジでは、放射線の健康影響についての

学びの場と発信の場

を提供しています。

学び、知をつむぐ

学びの場

放射線の基礎知識

放射線の健康影響

福島県の現状

などを学ぶ

自分ごととして
伝わる

発信の場

動画

イラスト

などの作品で表現

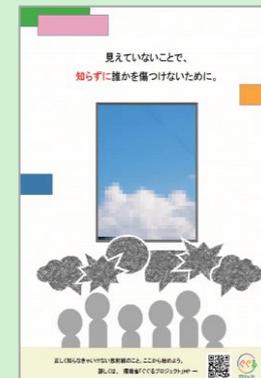
作品例



動画



漫画



ポスター